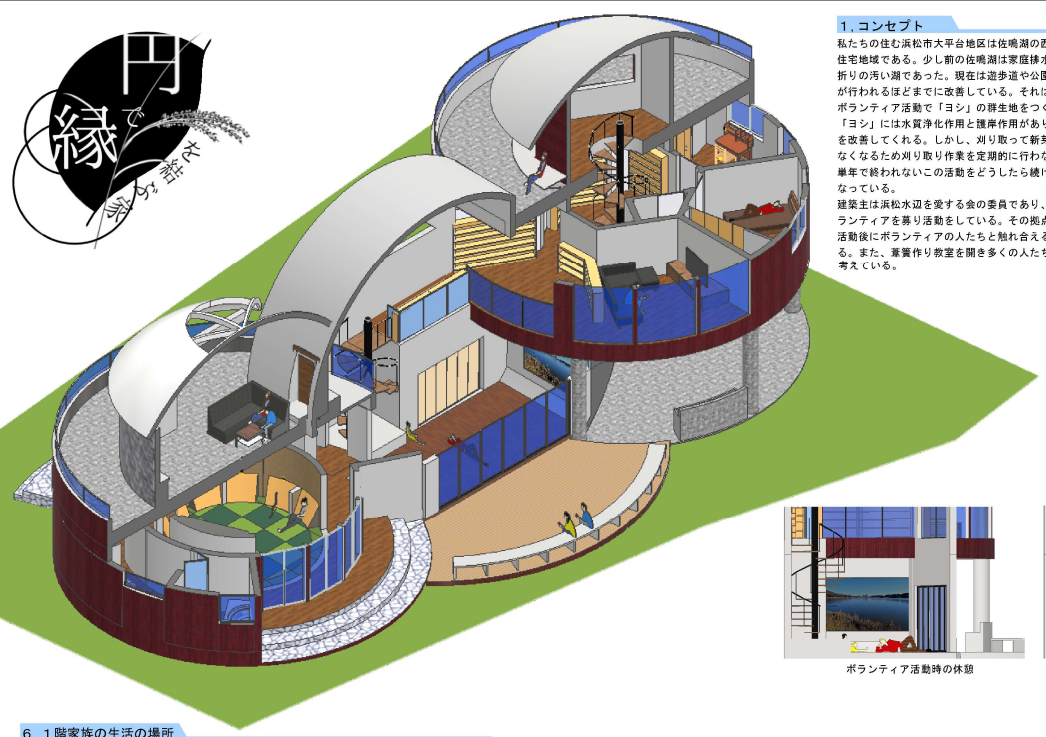
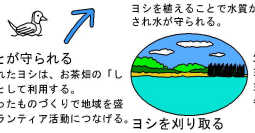
円で縁を結ぶ家



1．コンセプト

私たちの住む浜松市大平台地区は佐鳴湖の西側に面しており緑豊かな住宅地域である。少し前の佐鳴湖は家庭排水で汚染された日本でも指折りの汚い湖であった。現在は遊歩道や公園が整備され、湖畔の大会が行われるほどまでに改善している。それは、地域住民や学生たちのボランティア活動で「ヨシ」の群生地をつくったからである。
「ヨシ」には水質浄化作用と護岸作用があり景観を崩すことなく環境を改善してくれる。しかし、刈り取って新芽を出さないとその効果がなくなるため刈り取り作業を定期的に行わなくてはならない。
単年で終われないこの活動をどうしたら続けられるかが大きな課題となっている。
建築主は浜松水辺を愛する会の委員であり、ヨシ刈りの時期には、ボランティアを募り活動をしている。その拠点となる家を湖畔に建て、活動後にボランティアの人たちと触れ合える場所がある家を望んでいる。また、葦簀作り教室を開き多くの人たちにこの活動を広げたいと考えている。

2．ヨシ原の効果



ふるさとが守られる
刈り取られたヨシは、お茶畑の「しきわら」として利用する。
ヨシを使ったものづくりで地域を盛上げ、ボランティア活動につなげる。

ヨシを植える
ヨシを植えることで水質が改善され水が守られる。

生き物が守られる
ヨシが根付くことで湖岸が守られる。
ヨシ原は動物の住みかとなり生態系も守られる。

ヨシを刈り取る
年に２回ヨシを刈り取る。
刈り取って整備し、新芽を出す準備をする。

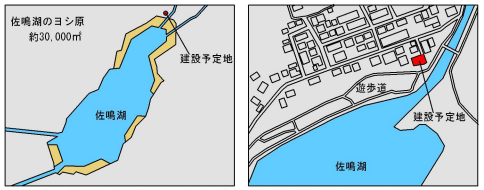
3．建築概要

面積表	（㎡）
敷地面積	506.12
建築面積	221.28
１階床面積	126.24
２階床面積	103.04
延べ面積	229.28

家族構成
父　浜松市職員　浜松水辺を愛する会の委員
母　浜松市職員　浜松水辺を愛する会の委員
子供　高校１年生男　卓球部
　　中学２年生女　卓球部
家族の共通の趣味は読書と映画鑑賞

4．建設予定地

静岡県浜松市中央区大平台5207-4

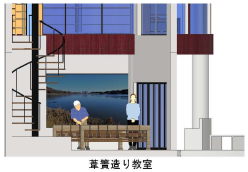


敷地の南面は佐鳴湖の遊歩道となっており、散歩やジョギングをする人が多く行きかう。
遊歩道からの出入りが可能で、湖畔に出てボランティア活動をするのも大変便利である。
また、佐鳴湖まで遮るものはなく、ヨシ原の生育も観察できる場所となっている。

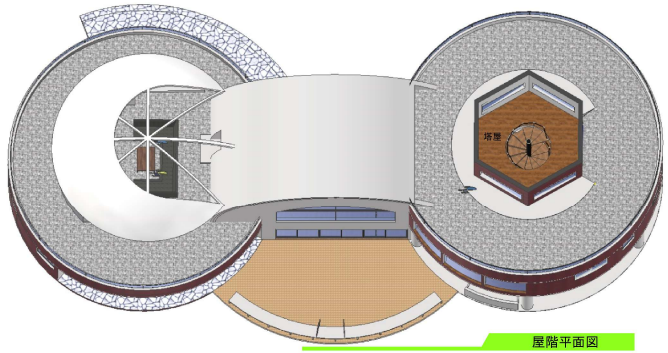
5．1階ラウンジ

建物の中央部に位置するラウンジはボランティアの人たちとコミュニケーションをとる場所。
休憩時にはテラスから靴を脱いで入いる。足をのばして座り、ごろ寝してくつろぎ疲れた体を再生させる。１２０インチのプロジェクターを設置したので大画面で動画が見られ退屈することなく過ごせる。活動後は、母親が葦簀作りを披露しこの活動の関心を深める。母親が取り組んでいる葦簀作り教室がボランティアの人たちの間で話題となれば人が集まるはずである。
ラウンジは空間が広いため、大迫力の映像で映画が楽しめたり、子供たちが部活動で取り組んでいる卓球の練習や簡単な運動なども行え、多目的に使える場所とした。

ボランティア活動時の休憩


葦簀造り教室

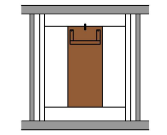
卓球の練習場

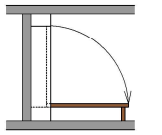


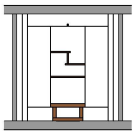
屋階平面図

6．1階家族の生活の場所

和室を家族生活の中心に置いた。「家族の団欒」「食事」「佐鳴湖の眺望を楽しむ」「ボランティア活動」など、その場面にあわせた使い方ができないかと考えた。
和室を円形状にして開仕切り壁を４つに区切った。テーブルを収納してある壁だけを固定し、残りの壁は稼動できるようにした。
「家族の団欒」では、TV側を開けて配置し、「食事」の時には台所側を開ける。「佐鳴湖の眺望を楽しむ」時には南側開口部に合わせ、「ボランティア活動」の時はラウンジとつながるようにした。この和室の壁には背もたれを付けることにした。もたれて座ると部屋の中心を向くようになるので人と人との目が合い、コミュニケーションが取りやすい。また、和室の外周りを利用するため畳の上に物を置くことがなく、常に気持ちよく過ごせる。
収納テーブルを下した壁面には、違い棚を取り付け和の雰囲気を出す工夫をした。

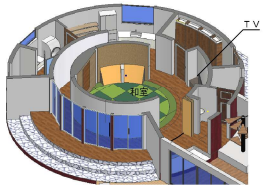

収納型テーブル


金具を外し手前に下す

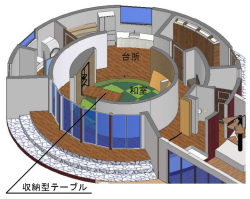

違い棚が現れる

稼働する壁

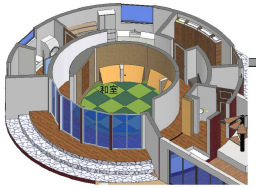
背もたれが付いている



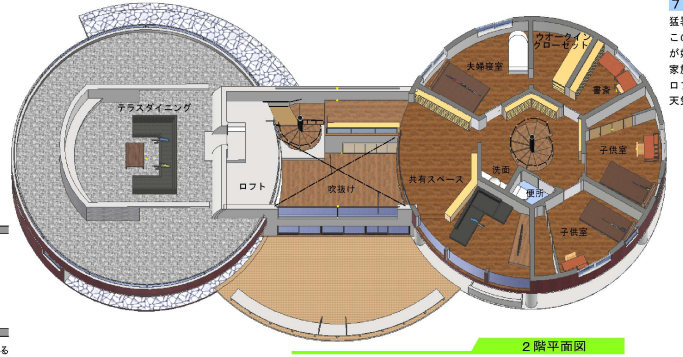
家族の団欒



食事



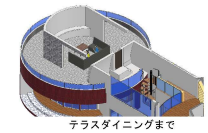
佐鳴湖の眺望を楽しむ

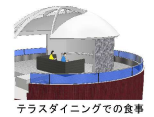


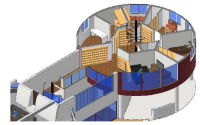
２階平面図

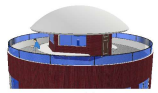
7．2階プライベートの場所

猛暑を耐え抜いた秋。佐鳴湖の朝はとても清々しい。
このような時期は朝起きて顔を洗いテラスダイニングで食事を採る。大変贅沢な朝食から一日が始められる。
家族のプライベートの時間は読書をして過ごすことが多い。そのため、共有スペースや通路、ロフトには本棚がありいつでも本を手に取ることができる。
天気の良い日には屋上に上がり気持ちの良い風に当たりながら読書にふける。


テラスダイニングまで


テラスダイニングでの食事

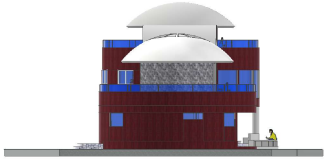

２階本棚

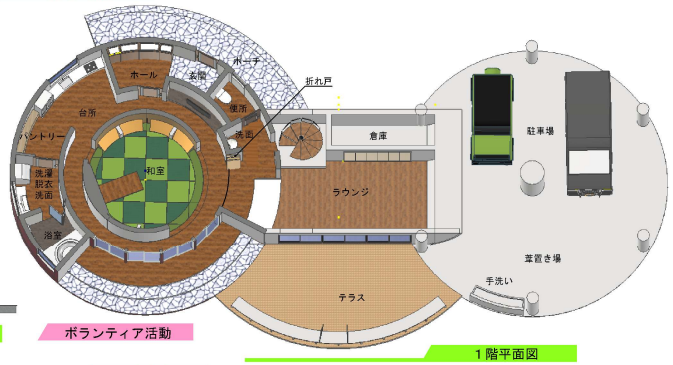

屋上で読書

南立面図

東立面図

北立面図


西立面図



ボランティア活動
１階平面図

8．まとめ

建物の形は、折り紙のリングチェーンをイメージした。
円が結ばれ縁ができるように、人と人との結びつきを建物で表現したかったからである。
中央の円はボランティアの人たちとコミュニケーションを取る場所、住人が使う両サイドの円をつなぎ、私生活においてもボランティアの活動時でも楽しんで暮らせる家を目指した。
佐鳴湖をもっともっと美しい湖にするには、多くの人の力が必要だ。今回、ボランティアの人たちが気持ちよく楽しんで活動してもらうために、ラウンジのある建物を考えた。また、いろいろな用途によって変化する和室とのつながりをもたせ、住人が一体となって取り組む姿勢を見せられる。
浜松水辺を愛する会の委員である住人が、この活動を長く続けていくのに必要な建物となったにちがいない。

透視図